



茗溪 かながわ

MEIHEI KANAGAWA

NO.4

発行 神奈川茗溪会（旧 茗溪会神奈川支部） 発行者 清水進一

平成 26（2014）年 6 月

「雑感」〜茗荷谷・つくばの最近

神奈川茗溪会会長 清水進一（s 四三教大教）



茗溪会本部の一般社団法人化に合わせて、私は本部理事職を現在の西塚祐一氏に引き継いだ後、本部事務局の業務をお手伝いするために、時々、茗溪会館に行っています。

その際、時間があるとたまに母校跡を散歩しています。

現在は、旧E館の跡に筑波大学文京校舎が新築され、大学院と放送大学が入っており、昔の校舎は跡形もありませんが、占春園だけは残っています。時々昔を思い出しながら付近を散歩していますが、あの頃と比べると、池の周りやうっそうとした森になり、私が過ごした昭和三十九年〜四三年春の頃とは大分変わりました。

そういう中で、池のほとりの銀杏の木が巨木になり、残っています。この木は私にとって忘れがたいもので、山岳部員であった私たちの岩登りの訓練場所でもありました。（他に、W館の横にあった高い煙突も懸垂下降の練習に使いました）。垂直な岸壁にハーケンを打ち、鏡を使って登攀するための練習には最適な木で、銀

杏の木には申し訳なく思いますが、私が大きな事故もなく活動できたのもこの訓練のおかげではないかとも思います。

卒業後も東京に出かけた時などは機会があると、必ず占春園に行き、銀杏の木の下から、一本だけ残したハーケンを眺めては学生時代を懐かしく思い出していました。そのハーケンも何故か二十数年前からは見ることができなくなりました。

筑波大学には年に数回出ています。大学で行う茗溪会の事業や、大学からの要請で、学生に講義をする機会がありますが、つくばエクスプレスが開通して、東京からのアクセスが特段に便利になりました。広大なキャンパスの中を走る循環バスや東京駅との直通バスが走るなど、移動当時は比べ物にならないほど、便利になりました。

学生たちのキャンパス内での移動はバスか自転車が多く、落ち着いた学園風景が見られます。学生たちと話してみると、時代と場所は変わりましたが、気質はあまり変わらないというのが私の印象です。

茗溪の水はつくばの地に降り、すでに四十年が経過しましたが、卒業生は東京高師から筑波大学までの茗溪の絆で結ばれた同窓生であることには変わりありません。

現在、全国の茗溪会の会員は、六割以上が筑波大学の卒業生で占められるようになり、また、キャンパスは違っても茗溪の水で育った者ならば、一つでも年長であれば、先輩として疑いもなく敬いますし、一つ下でも五〇歳下の筑波大生でも可愛い後輩であり、やみくもに面倒を見たり支援したくなってしまう。

同窓会の活動は、同じ水で育った縁を大切に年齢の違いを抜きにして交流していくものだと思います。そのためにも、神奈川茗溪会は今後ともさらなる活発な活動を続けていきたいと考えていますので、会員の皆さんのご協力をお願いしたいと思います。

神奈川茗溪会

管理職等懇親会

平成二十五年十二月七日（土）、ローズホテル横浜において、恒例の歳末行事である茗溪会管理職等懇親会が開かれました。今回は顧問として、神奈川茗溪会より清水進一会長と西村宗一郎副会長をお招きして、総勢二十八名が集いました。

会は、発起人代表である瀬木明氏（舞岡高校長の開会の辞に始まり、顧問二名のご挨拶に引き続き、今年度退職者を代表して望月正大氏（前・大原高校校長兼平塚中等教育学校校長のご挨拶を頂きました。乾杯の発声は、山崎紀彦氏（山北高校長）。

今年の懇親会の会場は、近年

に珍しく和室であったためか、例年にも増して終始和やかな歓談が続く中、有益な情報交換の場ともなりました。県立学校以外の所属から参加された高校教育指導課の岡野正之指導主事、総合教育センター企画広報課の山本栄一指導主事、そして今年度新たに麻生養護学校に着任の佐々木千世美教頭よりご挨拶を頂くとともに、総括教諭横浜清陵総合高・高村正光氏、座間総合高・白石勉氏の方々からも現況報告が語られ、一座から新たな仲間、熱い声援が送られていました。

各参加者からのショート・スピーチが続く中、今年度で本会を「卒業予定」の六名の方々から、大量退職時代を踏まえて次世代会員に託す思いなどが語られる一幕もありました。

閉会を迎え、昨年同様、大石進体育センター事業部長の指揮のもと、全員で宣揚歌を高唱、力強いエールで座を締めくくった後、山田和彦氏（上溝南高校長）の辞をもって閉会となりました。



文責 佐藤教道（s五六筑人文）

茗溪の水

人も知る 茗溪の水

よし濁れよ 濁さんよりは

〔桐の葉(言揚歌)より〕

「水」という文字は、不思議な象形をしている。「川」の文字は三本の縦線が流れる様を示す実に簡潔明瞭な象形だが、「水」はなぜ、一本の縦線の左右に、フ、と、く、の屈折を配置しているのだろうか。書道的には、ハネとかハライというのだろうか、書家はなにをイメージして「水」を書くのだろうか。

例えば、フ、と、く、は、支流かもしれない。溪流に次々と湧き出ずる渦を表す象形に見え、あるいは、奔流の左右に躍り出る清冽な飛沫にも見える。

“水”は、実に不思議で想像をかきたてる文字である。

今回、社会へ飛び立つ若き同窓と、社会に一区切りをつけた同窓を紹介させていただこうと思ひ、考へついたタイトルが、「茗溪の水」であった。

“水”の縦線は、幾星霜を経た茗溪の伝統であろう。右の、く、は、伝統に浴し社会で活躍する「茗溪の土」たる構え、左の、フ、は、まさに社会に打つて出ようとする若き同窓の意気込みにも思える。

真ん中の縦線が、凜として、揺るぎなく支え見守っている。

文責 矢野正人(53教院農)

未熟さ

東岳 (日二六体育)



平成二六年三月に筑波大学体育専門学群を卒業致しました、東岳と申します。四月より県立瀬谷西高等学校に勤務することになりました。担当科目は保健体育を担当します。

まずはじめに、私はほかの人よりも「できる」人間だと思つて社会人生活をスタートしました。授業やその他の仕事に対しても気配りや配慮ができ、他の新任の方よりもできると思っていました。それは大学四年間必死に部活動に取り組んでいたからということがあるかもしれません。自分の中では、こんな四年間頑張ったのだから他の人には負けないであろうという自負があつたのだと思います。しかし今、新生活がスタートし、その考えが甘すぎたということを感じています。

結局は井の中の蛙だったので。全く今までの経験・知識・価値観、すべてが通用しない、思つたような授業が全くできない、先輩教師の気配り・気づきに圧倒される。これらすべてのことで、自分の

至らなさを実感している毎日です。

しかし面白いことに、私は“できない”というこの環境で非常に充実した毎日を送っていることも事実です。今までの“できる”日々は、自分にとつてほとんど魅力がない日々でした。毎日を惰性で過ごし、“できる”ことに慢心する。向上心なく、現状維持が気持ちよくなつていた日々は、全く魅力的ではなかつた。ただの時間の浪費だつたのです。逆に今の私の置かれていない“できない”環境は、非常に充実しています。できないことばかりでいららうすることも多々ありますが、そのできないことが逆に私を奮い立たせてくれます。現状に満足せず、常に向上心を持ち、自分の目指している教師像に向かって努力していく、その気持ちは今後四〇年間忘れず、精進していきたいと思ひます。

皆様にもご迷惑おかけするかと思ひますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。

初めまして

三浦早織 (日二六教育)

平成二六年三月に筑波大学人間学群教育学類を卒業しました三浦早織です。

四月より横浜市立戸塚高等学校に勤務することになりました。担当教科は地理歴史科です。出身高校は神奈川県立横浜

平沼高等学校になります。生まれも育ちも神奈川県です。大学では、四年間体育会剣道部に所属し、十二年間剣道を続けてきました。

採用試験の際には、茗溪会の先生方にとつてもお世話になり、本当に感謝しております。特に二次試験の面接対策では、厳しい質問もいくつか投げかけられました。そのおかげで本番の面接では、ほとんど緊張することなく終えることができました。

四月より今までの学生生活からがらりと変り、社会人となるわけですが、まだ実感がわかないというのが正直なところです。

三月三十一日と四月一日、たった一日変つただけで一体自分の何が変わるのだろう、大丈夫なのだろうかとか考えることもありま

す。

しかしその一方で、想像もできない新生活に期待を膨らませている自分もいます。今までは生徒として通つていた学校ですが、これからは教員という立場で通います。きっと今までの学校の印象とは全く違うものになることでしょう。



どのような学校なのか、どのような生徒が通つているのか、どのような授業をしようかと考えるだけで胸が高鳴ります。

教員という職業は、本当に大変な仕事だと思います。しかしこの職業から得る感動は他の職業から得ることができない、素晴らしいものだと思います。

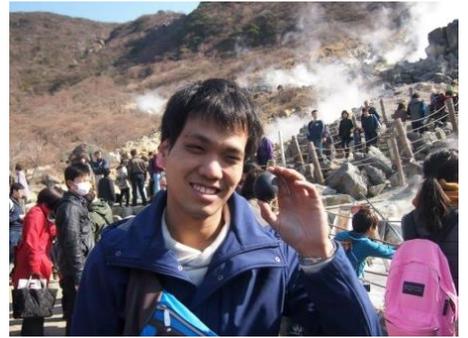
もしも大きな壁に当たつた時は、そばにいる先輩の先生方、茗溪会の先輩方の助けを借り、自分なりに乗り越える方法を探していきたいと思ひます。どうかご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

つくばの地で生活して

佐藤文哉 (日二六物理)

二〇一四年三月に筑波大学理工学群物理学類を卒業した、佐藤文哉と申します。

私は、小中高校時代は神奈川県、大学時代は茨城県で生活しました。中学高校時代は、所属していた剣道部での活動を中心に毎日充実した学校生活を送っていました。筑波大学在学時には、サークル活動で四年間、週に一回児童養護施設にうかがい、子ども達に勉強を教える学習支援ボランティアをさせていただきました。学習指導だけではなく、施設の行事にも参加させていただき、普通の学生生活では経験できないことを多く経験させていただきました。子どもは元々好きでした



筑波大学を卒業し、神奈川県で働けることになり、今はとても嬉しい気持ちでいっぱいです。筑波大学を卒業した多くの卒業生の方々が神奈川県で活躍されているという話は学生時代から多く伺っており、自分もそんな一人になれるようにこれから筑波大学で学んだことを活かして頑張っていきたいと思います。神奈川茗溪会の諸先輩方とどこかの機会でお会いできることを心より願っております。どうぞよろしくお願いいたします。

退職を迎えて

山崎紀彦（s五三教院農）



が、学習支援や施設の行事等に参加させていただく中で、一人ひとりの子どもの良さに目を向け、その子の成長を見ることができると喜びや、逆に子どもと関わることの難しさも感じるようになりました。サークルでは代表を経験し、自分を磨く機会も得ることができました。今考ええると、学業よりもサークル活動に夢になつていた四年間だと感じます。

つくばというとても魅力的な街で一人暮らしを経験したことは自分の中で大きな財産になっています。不安でいっぱいだった一人暮らしでしたが、周りの友人と助け合い、楽しい毎日を通すことができました。これも多くの人が一人暮らしをしているつくばならではのこころだと思います。平砂学生宿舎では他の大学ではなかなか味わうことができない経験ができました。五角形の部屋で過ごしたことは良い思い出です(笑)。

私が神奈川小田原市の社会科の教員になつたのは昭和五三年九月一日でした。当時は学校管理職異動が九月一日付けで行われおり、その補充のために採用されたからです。後日、小田原市の教育長になられた先生が茗溪であったことから、名簿の中から私を選んだのだとお聞きしました。

当時の教員採用試験には着任希望地区を記載する欄がありました。都市化の進む神奈川県でも足柄上郡や下郡であれば農業が営まれ、学生時代に学んだ農業の担い手育成や農村地域の在



り方についての考えを活かし、教員生活を送ることができているのではないかと考え、希望先として印をつけました。

教諭としては小田原市立白山中をかわり、城北中、吉田島農林高校、平塚江南高校、管理職としては吉田島農林高校、吉田島総合高校、山北高校で勤務してきました。

この間、多くの先輩、同僚、保護者、地域の方々、生徒との出会い、ふれあい、分かち合いがあり、その一つひとつが私の教員人生に色を添え、日々活力を与えてくれました。

また、教育に携わる者として、それぞれ生徒や保護者に語り伝えたいもの(「教育価値」)があるかと思いますが、その一つを気づかせてくれたのが大学院での研究仲間でした。

ここに掲載した写真は、農学研究科の五人が修士論文提出後、山梨県都留市の温泉旅館を訪れた時のものです。私(右後方)の他に、矢野事務局長(左端)が写っています。

教員生活の多くの節目で、先輩の方々からのご指導とご支援をいただきました。管理職として学校経営について一人判断し決定する際には、気のおけない茗溪の方々の何気ない言葉や教育に対する姿勢から勇氣と安心感をいただきました。神奈川県の教員生活三六年間の中で出会った方々に、失礼ではございますが、この紙面をお借りして、感謝申し上げます。ありがとうございます。

この春からは総合教育センター教育史資料室で、資料の整理や入力業務に携わっております。

お近くにお越しの際は、是非お尋ねください。小田原、箱根の山並みをご案内できれば幸いです。

また、秋からは教師を目指す学生とともに教育について学んでいきたいと考えております。

平成卒の若手が集う

第二回若手交流会の開催

昨年の神奈川茗溪会の懇親会での一コマとして、乾高章代表が以下のように述べていました。

発起人三人衆(乾高章、高橋一郎、森麻夫)が次回の若手交流会の日取りを決めかね、先送りしようとしていたとき、「大事なことは、いま決めてしまえ」と、事務局長から一言叱咤(アドバイス)され、毎年、十一月の第三土曜日、会場は、清水会長の口利きで、『大陸』横浜スカイビル(十一階)となりました。



▲西塚顧問を囲んで、若手達が和気あいあい。話題はもちろん、筑波での暮らしぶりでした。



▲秋の叙勲をお祝いました。花束を手に満面の笑みの川田理事。

昨年が続いて開催日を狙ったような鉄道事故の報に、一瞬不安な空気が流れましたが、今回は定刻に全員が揃い、めでたく開催の運びとなりました。ありがたいうちに、川田本部長が駆けつけてくれました。風邪を押しての参加でしたが、最後までおつきあいをいただきました。

二つの円く大きな中華テーブルを囲んで、平成と昭和の茗溪びと達が、時代とキャンパスを超えて和気あいあいの時間を愉しみました。その後の二次会は？

会員の皆様

神奈川茗溪会
会長 清水進一

神奈川茗溪会の総会と懇親会のご案内

青葉若葉のみぎり、会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のほどお喜び申し上げます。

さて、神奈川茗溪会の総会と懇親会を、下記の要領で開催いたしますので、お誘いあわせの上、ご参集いただきますよう、ご案内申し上げます。

記

開催日時 平成26年7月5日(土) 11:00～(受付10:45)

開催場所 ローズホテル横浜(TEL045-681-3311)

●JR根岸線「石川町駅(北口)」より徒歩10分 ●みなとみらい線「元町・中華街駅」より徒歩1分

日 程

総 会 11:00～12:00 宴 会 場 (2階)

講演会 12:00～13:00 宴 会 場 (2階)

演題:「明日の農業(仮題)」

講師: 北尾一郎氏(s53 教大農) 神奈川県環境農政局農業技術センター かながわ農業アカデミー校長

懇 親 会 13:15～15:30 ボール ルーム (2階)

※当日、参加者人数により、会場が変更となる場合がございます。

懇親会費等(当日、受付にて申し受けます)

一般会員 10,000円(支部会費1,000円を含みます)

新入会員 3,000円(支部会費1,000円を含みます)

※本分会費3,500円の納入も受け付けております。

出欠席につきましては 6月17日(火)までに、返信用葉書にてお知らせください。

※ 支部会費納入のお願い 当日参加できない方は、同封の払い込み用紙にて支部会費(1,000円)を納入いただきますよう、お願い申し上げます。なお、ご夫妻で会員の方につきましては、案内を1通とさせていただきますのでご了承下さい(支部会費はお一人様分で結構でございます)

*本会の名称変更に伴い、払込み用紙の払込先(加入者名)も「神奈川茗溪会」とすべきですが、郵便局の変更手続きが煩雑なので、旧名称の「茗溪会神奈川支部」となっています。ご了承下さい。

○ ご不明の点は、事務局または、以下の地区委員までお問い合わせください。

事務局長 矢野正人(s53 教院農) 080-5410-9149 E-mail: yano@kait.jp

川崎地区【川崎市】

委員 西村宗一郎(s51 教大植) 045-362-7010

委員 南 敏 章 (s52 教大数) 045-945-2086

横浜地区【横浜市】

委員 佐々木悦子(s46 教大体) 045-784-0670

委員 望月 正大(s51 教大数) 045-812-0281

横三・湘鎌地区【横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、三浦郡、茅ヶ崎市、藤沢市、高座郡】

委員 鈴 木 彰 (s49 教大地) 0467-52-5354

委員 瀬 木 明 (s52 教大応数) 090-1040-3612

平秦・西湘地区【平塚市、小田原市、中郡、足柄上郡、足柄下郡、南足柄市、秦野市、伊勢原市】

委員 細谷 俊一(s47 教大生化工) 0465-77-2046

委員 井出真理子(s47 教大英) 0463-71-1191

北相地区【厚木市、海老名市、綾瀬市、大和市、座間市、相模原市、愛甲郡、神奈川県外】

委員 大島 恵子(s46 教大植) 042-715-0317

委員 本木 幹雄(s50 教大体健) 090-3817-3402